

# 南会津 のうりんニュース



平成17年1月 (第80号)

## 今月の写真：「会津地鶏」(下郷町)

あけましておめでとうございます。今年は酉(とり)年です。まだひよこの会津地鶏。かわいらしいですね。昨年、皆さんにとってどのような年だったのでしょうか？ 今年(今年も?)よい年でありますように！

## 今月の内容：

- 今月のトピックス
  - ・アグリビジネスを学ぶ
  - ・林野庁長官賞おめでとうございます' ほか
- 特集！  
お米特集(第3回)『『売れる米づくり』を目指して!!』
- 南会津の木のはなし  
石伏旧若宮八幡神社の大クリ(只見町)
- 私と南会津  
埼玉県深谷市 湯田常一さん
- 研修会・講習会等お知らせ

平成17年1月11日発行 福島県南会津農林事務所

## 新しい年を迎えて

南会津農林事務所長 渡邊 孝一

新年明けましておめでとうございます。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

物に宿った魂は時間がたつにつれて衰え、それをよみがえさせる節目の行事の中でも、お正月は一番の行事でしょう。

ところで、私の団地内では神棚がない家が多くお正月でも玄関に飾り付けもありません。現実的ですがそこには新しいと思う気持ちだけが存在するようです。

気象庁では昨年の天候まとめを発表しました。全国150地点中39地点で年平均気温が観測史上最高を記録しました。年平均気温は100年に1°Cの割合で上昇しており、特に1990年代ははじめから高温となる年が頻出しています。

子供の頃は池でスケート遊びをしたものですが、今では積雪量が減り、氷は張りません。庭の梅は12月に咲きこんなに早く咲いてどうしたのと梅に向かって妻が叫んでいます。

地球は太陽からエネルギーを受け取り、いろいろな生物をつくり、複雑な自然の仕組みができあがり、ギリシャ神話の女神「ガイア」と名付けられました。このガイアの体温が上がり始めています。

J E ラブロックは1979年に地球の人口が100億人を越えたあたりから、とりわけエネルギーの消費が増大した場合は地球に何らかの異変が起こるのではないかと述べています。船に定員があるようにガイア丸にも定員があるということを述べているのです。環境を保全しながら増加する人口に対応できるのか、出来なければ、どちらを優先するのか大変難しい課題に直面しているのだと思います。

ガイア内の生き物は土壌と水と大気とオゾン層の恩恵で生きていますが土壌の浸食、水の枯渇、温室効果ガスの増加、オゾン層の減少と異変の徴候は現れています。

これらは何億年とかけて創造されたものです。我々は次世代に環境資源を健全な形で継承していく義務があります。ギリシャ神話ではガイア(大地の神)とウラノス(天空の神)の子供は復讐の女神となりました。ガイアを嘆き、悲しませると復讐がおこります。改めて新しい年を迎え新しい気持ちで、まずは環境問題を考えてみましょう。

## 今月のトピックス

### アグリビジネスを学ぶ

12月17日、地元で生産された農産物を加工・販売するアグリビジネスについて学習するセミナーを開催しました。

午前の部は『農産物加工・販売実践セミナー』として、「JAS法に基づく食品表示について」(南会津農



林事務所 農業振興部) 及び「農産物直売・加工関連  
法令(食品衛生法)について」(南会津保健福祉事務  
所 衛生推進グループ)の2つの内容で、直売所等で  
販売する農産物や加工品の表示の方法、農畜産物を加  
工販売する場合の営業施設及び営業許可の取得方法な  
どを学ぶ研修を行いました。

また、午後の部は『平成16年度アグリビジネス活  
性化セミナー』として、宮城大学大学院事業構想学研  
究科教授の大泉一貫先生による講演「地場産品を活か  
したアグリビジネスが地域を変える」と、参加者との  
意見交換を行いました。先生の迫力ある講演に、会場  
からは「大変勉強になった」との感想もあり、アグ  
リビジネスを通じた地域振興を考えるよい機会とな  
りました。

当日は、農産物加工・販売実践者、うつくしま農  
林水産ファンクラブ員、関係団体などから約120名  
の参加がありました。今回のセミナーをきっかけに、ア  
グリビジネスが活性化し、南会津の更なる地域振興  
が図られることが望まれます。

(地域農林企画室、農業普及部)

## 林野庁長官賞おめでとうございます



造林地の手入れに積極的に取り組み、地域の模範  
となっている林家を表彰する第43回東北・北海道  
地区民有林造林コンクールのすぎ・あかまつの部  
において、下郷町の遠藤茂さんが林野庁長官賞を受  
賞し、平成16年10月13日、福島市で開催され  
た第52回東北・北海道地区緑化推進大会の席上  
で表彰を受けました。平成15年の県知事賞に引  
き続いての受賞でした。

また、第43回農林水産祭全国林業経営推  
奨行事(複合的林業経営)で林野庁長官賞を受  
賞した下郷町の渡部善一さんは、去る11月22  
日、大日本山林会総裁の桂宮宜仁親王殿下  
をお迎えし東京都の三会堂ビル石垣記念  
ホールで行われた賞状伝達式に夫人同伴で  
参加されました。

この賞は、林業技術や経営改善に積極  
的に取り組み、林業所得の安定的向上と林  
業経営の近代化を図っている林業経営者  
を表彰するもので、伝達式では、農林水  
産大臣賞8名、林野庁長官賞16名、全  
国林業改良普及協会会長賞6名に賞状  
と記念品が授与されました。

受賞報告に訪れ、渡邊所長、大堀次長、川村森林  
業部長と懇談した遠藤茂さん、渡部善一さんは、いつ  
までも緑豊かなふるさとを守るために力を尽くしたい  
と熱く語っていました。(森林林業部)

## “ちびっこ”おいしいごはん講座と 施設見学会



ごはん食の健康性や米飯  
給食に対する理解を  
促すことなどを目的として、  
去る12月18日に、南会津  
地方ちびっこ“おいしいご  
はん”講座を開催しました。

当日は、南会津管内(田  
島町・下郷町・館岩村・南  
郷村・只見町)の小学校低  
学年生(1~3年)とその  
親の20組(45名)が参加  
しました。

午前は、南郷第一小学校管理栄養士の横田みえ子  
先生を講師として、地元産食材等を使用した調理実習  
(かんたんかんたんエビピラフ、ほたてご飯、会津地鶏  
のハーブ焼き、アップルロール、なめこ汁)や、ご  
はん食の健康性を勉強する講習会等を実施し、昼食  
には参加者全員で自らが作った料理の試食会を行  
いました。

また、午後には、施設見学会(開当男山酒造(田  
島町)、角田ミルクプラント(南郷村))を行い、地  
元の原料(米や牛の乳)が製品(酒や牛乳)になる  
までの製造過程を見学しました。角田ミルクプラ  
ントでは牛とふれあったり、施設のご好意で搾り  
たての牛乳をこちそうになるなどとても楽しい見  
学会となりました。

ごはん食の健康性や地元農産物について勉強し  
た、この講座をきっかけに、これからも健全な食  
生活を実践していきたいですね。

(農業振興部、地域農林企画室)

## 高校生から”心のこもった”贈り物

南会津農林事務所では、田島高等学校環境科学  
コースの3年生を対象に、座卓製作を通して物  
を作る楽しさを知ってもらおうと、木材加工学  
習に取り組みました。

材料は、天板がポプラ、脚はアカシヤで、い  
ずれも校内で育った歴史ある材料です。2年  
生の生徒さんや、北星木材の星正雄さんの協  
力も頂きながら完成した座卓は、昨年に引  
き続き、田島町に贈呈され、「御蔵入の里  
森の交流館」で利用されることになりました。

贈呈式は、12月20日に森の交流館で行  
われ、生徒代表者からの「大切に使ってくだ  
さい。」との言葉に、湯田町長からは、「地  
元の自然の素材を使って立派な座卓を作  
っていただき感謝申し上げます。今後

とも地域づくり  
に取り組んで行  
きましょう。」  
との言葉をいた  
だきました。

町民のみなさん  
にとっても、思  
い出深い座卓  
になることと思  
います。

(森林林業部)



お米特集（第3回）

『売れる米づくり』を  
目指して!!

～米の生産目標数量の配分から～

（農業振興部）

国は、昨年11月、客観的な需要見通しを基礎に需要に応じた生産を促進する観点から、平成17年産米の生産目標数量を全国では前年より6万トン減の851万トン、本県へは前年より8,010トン減の390,320トンとしました。本県は、米の主産地であるにも関わらず北海道に次ぐ大幅な減少量となっています。

これを受け、県では昨年12月に、平成17年産米の市町村別生産目標数量を通知しました（表のとおり）。

生産目標数量の配分は、平成15年12月に県水田農業改革推進本部が、収益性の高い農業経営の確立と米の消費拡大、活力ある生産構造の確立を目指すために策定した「水田農業改革アクションプログラム」の推進項目の取組み状況が大きく反映されています。

具体的には、これまでの生産調整実績を踏まえた町村毎の最大可能収量で50%が配分され、残り50%は米政策改革の達成度合いを図る指数である①高品質米の生産（ $\uparrow$ 等米比率）、②低コストな米の生産（水稲直播栽培導入面積比率）、③安全・安心で環境にやさしい米の生産（特別栽培米栽培面積比率・エ

コファーマー認定面積比率）、④生産基盤の整備（水田整備率）、⑤稲作の規模拡大（大規模稲作経営体数比率）で配分されました。

このように、国から県へ、県から町村への生産目標数量の配分は、過去の生産調整達成状況を踏まえながらも、消費者・市場重視の考え方にたって需要に応じた「売れる米づくり」を推進する観点から配分が行われております。

南会津地方の立地条件から、「水田農業改革アクションプログラム」推進項目の中でも取り組みにくい事項もありますが、特別栽培やエコファーマーによる栽培、更には有機栽培の「環境にやさしい米づくり」と水稲直播栽培等の取組みは、今後の南会津地方の水田・水稲を守るための必須条件と考えます。

農業者の皆様の一歩が最も必要です。消費者ニーズに対応した「売れる米づくり」に積極的に取り組みましょう。

表：市町村別生産目標数量（単位：トン）

町村名	17年数量	16年数量	減少量
田島町	3,081	3,164	83
下郷町	2,463	2,548	85
館岩村	533	558	25
伊南村	701	727	26
南郷村	1,339	1,363	24
只見町	2,135	2,213	78
計	10,254	10,575	321



南会津の木のはなし

石伏旧若宮八幡神社の  
大クリ

（只見町産業振興課）

只見町内で最大の栗の木です。石伏地内の旧若宮八幡神社の裏山の斜面に生育しています。周囲には杉林が茂り、斜面はユキツバキやヒメアオキ、ケアブラチャンなどでおおわれています。

根回りは850cm、地上から約5mの高さで大きく3本の幹に分かれています。東側の幹は周囲360cmで直径が114cm、中央の幹は周囲410cmで直径が130cm、西側の幹は周囲470cmで直径が149cmです。この3本の全てが巨木に相当する大きさです。それから考えても、この大クリの大きさがわかります。

平成16年度に只見町文化協会が作成した「只見町の巨樹・巨木番付」でも、堂々の西の横綱として挙げられています。ちなみに樹高は18m、地上1.3mでの幹周は750cmです。



## 南会津は私の原点、 南会津は世界の宝もの

埼玉県深谷市 湯田 常一さん  
(下郷町白岩出身)

昭和18年生まれの私は東京から父の故郷に疎開し、会津工業高校機械科を卒業して、37年、電機メーカー（埼玉工場）に就職しました。長男が家を離れることで母の悲しみは勿論、親不孝と思いました。その為か、長男としての自覚は持ちつづけました。

仕事は生産技術を勉強し、30歳で3年間の海外赴任、その後埼玉から栃木工場、そして埼玉県（秩父）にある連結子会社（資本金8億円、従業員700名）の経営を担っています。

埼玉に来て、味気なかったのは、会津のようなはっきりとした四季がない事。子供の頃は、学校帰りに大川で泳いだり、冬は坂道を凍らせ、スケートで遊んだり、冒険的な遊びが沢山ありました。夏休みは、二岐山のふもとまで2時間歩いた営林署の下刈り作業で鍛えられました。また歴史にも接し、会津魂を育んだと思います。今、自宅の深谷市からクルマで1時間、秩父まで通勤していますが、南会津の



JR高崎線の深谷駅前にて。深谷駅は東京駅に似た駅舎ですが、これは東京駅の赤レンガが深谷市で作られたことにちなんだものです。

風景に似ています。地域のためにも海外に負けない物作りに挑戦しています。

さて、南会津のオンリーワンを想うと、キーワードは「自然環境の豊かさ」ではないでしょうか。この財産を更に極める為のプロセスを共有化し、皆の力で世界に南会津をひとつの宝物として発信したいものです。本物の清流をはじめ、本物を求めて、研究開発機関なども出現するなど各分野から人が集まり、発展する。そんな南会津を想像していると胸が熱くなります。

かけがえのない故郷に感謝し、いつまでも応援しています。



### ～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①田植機保守点検整備	2月1日(火)	農業短期大学校（矢吹町）
②指導農業機械士養成	2月8日(火)～10日(木)	農業短期大学校（矢吹町）
③醤油の加工	2月9日(水)	農業短期大学校（矢吹町）
④トラクタ運転免許	2月14日(月)～17日(木)	農業短期大学校（矢吹町）
⑤安全な加工品販売のための包装資材・品質表示	2月17日(水)	農業短期大学校（矢吹町）
⑥トラクタけん引免許取得	2月21日(月)～24日(木)	農業短期大学校（矢吹町）

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



### お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.hukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100

PRINTED WITH SOY INK™

古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。